

日本出土の三葉環頭大刀について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2941

「日本出土の三葉環頭大刀について」

川 真之介

本稿では日本出土三葉環頭大刀の一部に見られる中葉が五角形あるいはつぼみ状の三葉紋が日本と百済にしか見られないこと、その型式に施される鱗状紋の特徴も百済系であることから、その型式は百済系であると考えられる。さらに、装飾付大刀と馬具の製作には共通点があることから、馬具の製作者が百済の資料をモデルとしてその型式の三葉環頭大刀を製作していたと考えられる。また、三葉環頭出土古墳は畿内にも多いが、地方の地位が比較的高く武人的性格の強い被葬者の墓からも多く出土していることから、三葉環頭大刀は日本では畿内政権が有力者を軍事的に編成していくために一定の身分を表す標章として地方の有力者に配布されていたと推定できる。また、三葉環頭大刀出土古墳と比較すると、伽耶で主流の三葉環頭大刀が古新羅に多い三葉環頭大刀よりも重要視されており、畿内政権は古新羅よりも伽耶との関係のほうが深かったのではないかと考えられる。



宮崎県 山の神塚古墳出土 三葉環頭